

『おおいしだの』とむがすあつたけど⑬

えかご(イカゴ)清水

駒籠の野尻川から向かって右側の方に泉がある。昔、ある殿様の家来が、駕籠を二つ持って逃げてきた。そして、村の入り口のきれいな水のわき出る泉に来て、水を飲んだ。そこを去る時に、たまたま二つの駕籠のうち、古くて悪い方の駕籠をかついで、よい駕籠を忘れてしまった。それで、地元では、よい駕籠をええ駕籠と言いい、その泉を「ええ駕籠」と言うようになったそうだ。

また、現在のえ駕籠の泉は、もとは「手杵泉」と言われていた。なぜかという、尾花沢の薬師様の泉に杵をうるかして(水にひたして)おいたら、その杵が、おどろくなかれ、え駕籠の泉まで続いているのだらうという話である。

野尻川の橋をわたり、駒籠に入ると坂があり、その坂の右側に泉がある。泉の所には、中台地の崖が続き、高い台地に至る。高い台地のふもとあたりが「いかご」と言われている。「いかご」という地名は、近江にもある。琵琶湖の北に、余呉湖という湖があり、その南東に伊香具地方がある。平安時代の初期に、当時の中央政府は、東北地方に勢力を伸ばして、陸路と水路の駅をつくった。ちょうど最上川のこのあたりに野後駅を置いた。水陸両用の駅であり、交通の要所になっていったといえる。(野後駅の場所や川の様子などは詳しくは分かっていない。)

野後駅が置かれた頃、当時の新興地(新たにおこすこ

と)野後駅に転任してきた人々が、故郷を懐かしがって地形の似ているところから「いかご」の地名にしたのではなからうかと推測されてもいる。鐘を運び出した跡のくぼみは、たちまち川になってしまい、その川を鐘川と呼ぶようになってしまったというのです。

○出典『大石田の」とむがす』

(大石田の」とむがすの会

編集発行、二〇一九年)

今回のお話も、大石田の」とむがすの会

むがすの会の『大石田の」とむがす』からのお話です。

今回は、野尻川近くに湧き出ている清水が舞台です。「すず」という読み方は秋田県や山形県で使われている方言です。現在は「イカゴの清水」と標記され、町の登録記念物に登録及び「里の名水・やまがた百選」に選定されています。

また、野尻川と最上川の合流地点でもある付近には、縄文から中世までの駒籠橋跡があります。平安時代に編纂された『延喜式』の「諸国駅伝馬条」には「野後」という水駅が載っており、駒籠はかつて最上川の水上交通路の水駅として開かれた地だと考えられています。

お話の後半では、清水の二つ目の由来でもある琵琶湖北部の「伊香具」という地域について触れられており、律令国家における中央からの役人が、この地に転任したかもしれないと考えられるなど、古代の様子が窺えるお話です。

○参考文献『やまがた地名伝説 第一巻』

(山形新聞社編集発行、二〇〇三年)



町の人口 令和3年6月1日現在

世帯数	2,309 戸	(+2)
総人口	6,627 人	(-4)
男	3,269 人	(-1)
女	3,358 人	(-3)

(5月中の異動)

出生	0 人	転入 9 人
死亡	9 人	転出 4 人

※この数字は外国人数も含めた数字です。

大石田町公式アカウント開設

LINEはじめました

防災情報などを
受け取ることができます。

友だち登録を
お願いします!



登録方法

右のQRコードを読み
取って友だちに追加
してください。



大石田町公式LINE

防災放送の内容を

電話で確認できます

防災放送が聞き取りにくい、放送内容を確認したい等のご意見をいただき、町では防災放送確認ダイヤルサービスを開始しました。

このダイヤルは定時(夕方6時のメロディ等)放送を含め、直近の放送から8時間以内の内容を順次聞くことができます。

確認ダイヤル: 0237-48-8444

■総務課総務グループ TEL.35-2111 (内線218)